

平成 28 年度第 1 回逗子市環境審議会 会議概要

日時：2017 年（平成 29 年）1 月 11 日（水）
午前 10 時～11 時 30 分
場所：市庁舎 5 階 第 5 会議室

1. 配布資料

次第

資料 1 「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定スケジュール」

資料 2 「逗子市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）」

2. 出席者

藤井会長、栗飯原委員、大塚委員、小川委員、新倉委員、山上委員

事務局：環境都市部 田戸部長、谷津次長、環境管理課 大澤副主幹、山下主事
（欠席者：佐野副会長、中津委員、渡邊委員）

3. 議事内容

（1）逗子市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）について（報告）

- 事務局から、今回の審議会は、実行計画（区域施策編）について、パブコメに先立ち、委員の意見を確認することを目的とするものであり、計画の位置付け、策定スケジュール、計画の内容について説明したところ、委員から、次のとおり意見があった。
 - ・再生可能エネルギーや省エネルギー技術については常に変わり続けているものであり、これから変わっていく社会へ対応していく旨が記載されるべきではないか。
 - ・低炭素なまちづくりを目指すことで、経済や福祉にも好影響を与えることにもなり、魅力あるまちの将来像に向けて取り組んでいく旨を記載してはどうか。
- その他、資料 2 について委員から次のとおり、意見、質疑応答があった。
 - ・フロンガスは地球温暖化への影響が大きいため、フロン対策を十分に行うことが望まれる。一部の小売店では、事業所で使用している冷蔵庫・冷凍庫について従来のフロン使用製品を廃止し、CO2 やアンモニア等を使用するものに変更した。
 - ・19 ページにある家庭部門からの温室効果ガス排出量が全体の 34% という根拠は何か。
→（事務局）温室効果ガス排出量は、統計情報に基づいて算定されており、環境省のホームページで簡易手法による算定結果が公表されている。
 - ・各家庭が太陽光発電設備を導入するのはもとより、そもそも電力をつくる発電会社も、再生可能エネルギーによる発電をするような社会にすべきである。
 - ・電力の自由化に伴い、東京電力以外の電気事業者から電気を調達できるようになる。今後、家庭でのエネルギー消費の多くを占めている熱利用（暖房、給湯など）を対象とする地域熱供給を行う事業者が出てくることも期待される。

- ・24 ページの温室効果ガスの将来推計に当たり、廃棄物部門を現状で固定している、とはどういう意味か。
- (事務局) ごみに関する施策が現状のまま推移する、という条件で算定したことを示す。ごみは施策が変更されると、排出量・処理量が大きく影響を受ける。
- ・将来的に人口が減少していくにも関わらず、温室効果ガス排出量が増加するのはなぜか。
- (事務局) 一世帯当たりの人員の減少や、高齢化が進むことにより、一人当たりの排出量が増加することによる。
- ・世界水準で見ると、国の削減目標は決して先進的な数値ではないことは認識してほしい。
- ・高齢化に対して「歩いて暮らせる」まちづくりを推進することは非常に良いことであり、市民に対する意識啓発などを推進すべきである。
- ・税金を払って終わり、とはせず、自分のまちは自分で良くするべく、市の取組だけでなく、市民一人ひとりの意識を高めることが望まれる。
- ・太陽光発電普及の一方では、投機目的で、農地・山林などに大規模設備を導入することによる新たな環境破壊を生んでいるという側面もある。太陽光発電などの再生可能エネルギーは、地産地消的に導入することを基本とすべきである。
- ・52 ページの文章中の「支援」と図表 5-1-1 の内容の整合を取れるように見直してほしい。
- ・「歩いて暮らせる」まちづくりは、理念・方向としては素晴らしい。しかし、現実問題として市域はかなりのアップダウンがあることや、近隣市町との交通、観光産業の振興の必要性など、地域の発展を考えると、現実問題との折り合いをつけることが必要である。より具体的な政策があれば、市民にも分かりやすいと思う。
- ・海外では、商店街への車の出入を禁止したら、却って商店街が振興したという事例がある。車に乗ると途中を無視して、家と大規模店舗を結ぶだけだが、歩くようになると途中の商店街などで買い物をすることが増え、地域全体が賑わうようになった、とのことである。こうした事例を参考に、歩いて暮らせるまちを目指していくことが重要である。
- ・山があり、アップダウンが多いことをマイナスに見るのではなく、発想を転換してプラスに考えるべき。歩いて暮らせるまちの中でアップダウンが多いことは健康増進につながり、高齢者が健康に暮らせることは本市のアピールポイントになる。
- ・江ノ電を葉山までつなげることで観光の振興を図ることは非常に魅力的である。
- ・商店街での歩行者天国は大賛成。土・日だけの実施で十分と思われる。車でないと来られない高齢者への配慮も必要であり、平日まで開催する必要はないと思う。
- ・環境施策は、これまではインフラ整備が主体であったが、整備後に維持費が高くてインフラがだめになることが多かった。今後は無理やり生産性を高める必要はない。維持費やコストをかけないやり方、仕組みづくりが大切であり、将来的には「持続性」が大事である。持続性を得るためには、若い世代に負担をかけないことが必要である。
- ・(事務局から欠席した委員からの意見を紹介) 策定した後の啓発・情報伝達が大事。お金をかけずにやることのできる取組を市民に示すべき。
- ・環境教育は大事であり、学校の教員は全員が生徒に対して環境教育を行うことができるようにすべき (教員を対象とした研修など)。

(2) その他について

事務局から、今後のスケジュールについて説明した。

- ・ 審議会での意見等をふまえて、計画案を調整し、2月にパブリックコメントを募集し、3月に策定する予定である。

以上